

S-NST委員会について

栄養士のかかわりについて 栄養管理部 竹腰 真紀



管理栄養士は、患者さんの食事内容の確認、体格からの必要エネルギーの算出、現在の摂取量からの実際の摂取エネルギー量の計算などを行います。食種・主食の変更や嗜好にあわせた補助食品の提案もおこない、個々に適したお食事の提供に努めています。

食欲の低下や噛む力が弱くなるなどの口腔機能の低下により食事が食べにくいという理由から、徐々に食事が減り身体を動かすために必要なエネルギーや筋肉・皮膚・内臓など体を作るたんぱく質などの栄養が不足している状態のことを低栄養といいます（体重の変化や血液検査の結果から低栄養を評価します）。低栄養状態では感染症、褥瘡、創傷治癒の遅延、骨格筋の萎縮などのリスクが高くなります。また日本では入院中の高齢者において30-50%の割合で低栄養がみられるとの研究があります。NSTでは低栄養の原因のなかで食事摂取量の少ない方に対して、食欲低下があればその原因を多職種で検討したり食事が食べにくい場合はその方にあった食形態に変更したりと改善に向け取り組んでいます。

看護師のかかわりについて 摂食嚥下障害看護認定看護師 楠 さやか NST専門療法士 石倉 美智子

看護師は、療養生活を送る患者さんにとって最も身近な存在です。食事量や嚥下状態、食欲、血液データや体重などのあらゆる情報を総合的に把握しています。日々の栄養管理に関して、患者さんと相談しながら症状や嗜好に合わせた食事ができるよう支援しています。栄養補

給の方法や病気の回復、合併症の予防に栄養管理の方法を提案します。患者さんから得た多くの情報をチームで共有することで、低栄養やフレイル（加齢によって虚弱した状態）予防を行っています。

その中でも、私たち看護師は「口から食べること」を意識したアプローチを大事にしています。口から食べることは栄養を取り入れるだけでなく、その人の楽しみや喜び、患者さんのQOLに大きく関わります。そのため、口の中の清潔や機能の維持、改善が重要です。当院では入院時すべての患者さんに嚥下障害のアセスメントや嚥下機能評価、食事の観察、姿勢調整を行い、安全・安楽に食べられるよう努めています。一人でも多くの患者さんが少しでも長く安全に食べ続けられるように支援していきます。



【富山ろうさい病院 院内公開講座・生活習慣病教室】のお知らせ

《院内公開講座》

日 時	令和6年5月29日（水） 14時00分～14時45分
場 所	1階総合受付横フロア
テーマ	がん検診とがん予防について
講 師	緩和ケア認定看護師、管理栄養士他

《生活習慣病教室》

※2階外来受付にお声掛けください。

日 時	令和6年6月26日（水） 14時00分～15時00分
場 所	2階採血室待合フロア
テーマ	決定次第お知らせ致します。
講 師	決定次第お知らせ致します。

嚥下障害と言語聴覚士のかかわりについて
中央リハビリテーション部 小倉 忠裕



言語聴覚士は、対象となる患者さんのリハビリテーションの進行状況・食事摂取能力・食形態に関する情報提供やアドバイスなどを行い、リハビリテーションという立場から多くの情報をS-NSTに発信し患者さんの早期回復、早期退院に貢献しています。

脳卒中等の病気や加齢による筋力低下が原因で食べ物の通り道である喉に何らかの問題が生じ飲み込みが悪くなる状態を嚥下障害と言います。

喉の動きが悪くなったために飲み込んだ物が気管や肺に入ってしまうと誤嚥性肺炎を起こします。発熱・呼吸苦・喉の違和感・痰がらみ・食欲低下・体重減少などの症状が見られ、食事を十分に摂ることができなくなり栄養障害や脱水症を引き起こします。誤嚥性肺炎になると入院し絶食の上、抗生剤の点滴治療や言語聴覚士などによる嚥下リハビリ(摂食嚥下訓練)やS-NSTによる栄養管理が必要になります。

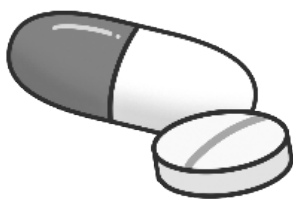
当委員会での検査技師の役割は、栄養評価の指標となる検査データの管理業務です。入院時に低栄養と思われる患者さんの血液検査データをまとめて、チームのメンバーに共有するなどの役割を担っています。

血液検査で栄養状態を評価する項目としては、血清アルブミン、中性脂肪、ヘモグロビン、総リンパ球数などがあげられます。また短期の栄養評価には、半減期の短いたんぱく質、当院ではトランスサイレチン(プレアルブミン)が検査可能です。患者さんの栄養状態が改善するよう、今後も取り組んでまいります。

検査技師のかかわりについて
中央検査部 藤田 みずほ



錠剤やカプセル剤が飲みにくい方へお願い
薬剤部 田中 みずほ



S-NST委員会での薬剤師の主な役割は、飲み込み力・食欲の低下と薬剤との関連性を検索し、栄養状態の改善に繋げることです。

食べ物の飲み込みが上手くできない方の中には、お薬も飲みにくくなり、家で粉砕や破壊をして飲んでいませんか。錠剤・カプセル剤は単なる粒ではなく“創意工夫が詰まったもの”で、胃酸で失活しないよう(胃では壊れず腸で壊れるよう)工夫が施されたものや、長時間作用させるための多重構造になっているもの等があります。粉砕や破壊は、これらの工夫を壊すことで、薬の作用を弱めたり副作用の発現に繋がる危険な行為となります。

錠剤等が飲み込みにくい方は、一度かかりつけ薬局等の薬剤師に相談して、服用しやすい剤型の選択や砕いて服用して良い薬剤かどうかの確認をしてもらうことをお勧めします。

病院からのお知らせ

受診される際は、マイナ保険証によるオンライン資格確認にご協力をお願いいたします。

オンライン資格確認により、マイナ保険証1枚で医療保険の資格情報や限度額区分等の情報が確認出来ます。

がん患者さんご家族のための交流サロン「あっぱるサロン」のお知らせ

日時・場所：令和6年5月10日(金)、7月12日(金)、9月13日(金)、11月8日(金)、

令和7年3月14日(金) 13時30分~15時30分 2階ボランティアルームにて開催

予約不要、参加費無料ですので、お気軽にご参加ください。